

# AIDS UPDATE

広島大学病院 エイズ医療対策室 内線5351  
中四国エイズセンターホームページ URL:<https://www.aids-chushi.or.jp>



## 各種研修会のご報告

### ～HIV抗体検査相談従事者のためのカウンセリング研修会のご報告～

エイズ医療対策室  
臨床心理士 杉本悠貴恵

皆さんこんにちは。臨床心理士の杉本です。8月4日に広島市総合福祉センターで中国四国ブロック内に検査相談に従事している医師、保健師等の方々を対象にした研修会を開催いたしました。コロナ禍はWebで開催をしていましたが、今年は4年ぶりに集合で開催しました。今回、HIV検査に従事して1年と比較的担当したばかりの方が多くご参加くださり、今後のHIV検査時の対応に役立てたいという雰囲気をとて感じました。

最初にHIV感染症の最新基礎と検査について、当室室長の藤井先生が講義を行い、その後、当事者の方からお話をいただきました。後半は、少人数グループに分かれてHIV検査相談場面のロールプレイを行いました。HIV検査相談場面と言っても電話受付、受検前の説明、スクリーニング検査時の対応、確認検査時の対応とさまざまな

場面があり、各場面で留意する点や伝える内容は異なってきます。特にHIV陽性告知後の対応は、経験が限られる施設も多いので、支援者も緊張してしまう場面と思います。どのような場面にも対応できるように、ロールプレイを行い、感想や難しかった点などをグループでシェアし、理解を深めることができました。参加者の方からも「陽性者のお話を聞いて自分の支援について改めて考えさせられた」、「講義からのロールプレイで実践に落とし込むことができたので、今後の支援に役立てていきたい」などの感想をいただくことができました。地域や職種を超えた学びを得ることができて、私たちスタッフもとても嬉しく思っています。次年度以降もHIV検査に従事する皆様のお役に立てる研修会を開催していきたいです。

## エイズワーキンググループからのお知らせ



こんにちは！エイズワーキンググループです。私たちは、有志による課題活動グループで、HIV/AIDSに関する最新知識を深めたり、看護実践能力を高める活動に取り組んでいます。活動の歴史は長く、今年度で23年目を迎えました！現在、病棟や外来のHIV/AIDS診療に関わる看護師など、計16名で活動しています。

今年度は病棟で使用しているHIV/AIDS患者の看護基準の見直しを中心に行い、HIV/AIDSに関する最新情報の共有や研修会参加報告などの情報共有や意見交換を行っています。

また、新しいメンバーも随時募集中です。ご興味のある方はぜひご連絡ください。皆様のご参加をお待ちしております。

【連絡先】後藤志保（エイズ医療対策室 PHS：4331）  
木下一枝（I 外来 PHS：4796）



# ～2023年度第1回2回 看護師のためのエイズ 診療従事者研修開催報告～



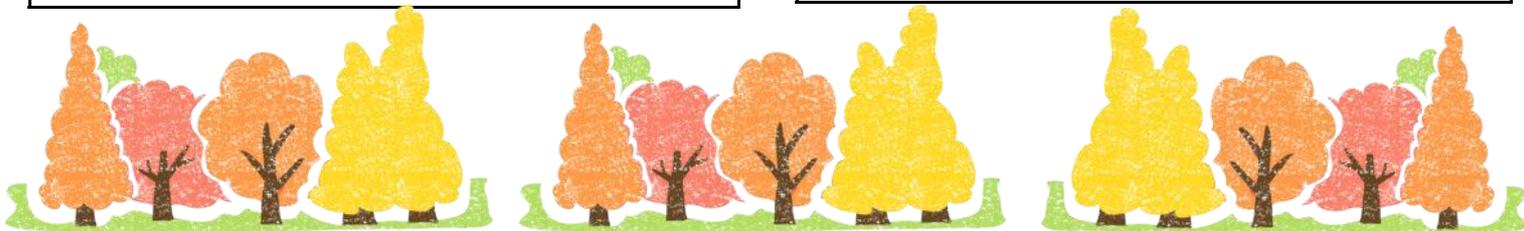
エイズ医療対策室  
看護部 後藤志保

第1回は2023年6月22日23日に、第2回は7月27日28日に開催しました。開催形式は昨年度まではオンライン形式に変更していましたが、今年度は完全に参集形式としました。第1回は14名、第2回は16名の方にご参加いただきました。

昨年度は広島県外からの参加者は11名でしたが、新型コロナウイルス感染症が5類に移行した影響か、今年度は18名に増加しました。中四国地方ほぼ全域からのご参加でした。プログラムは以下の通りです。

内容
受付開始
開会挨拶（広島大学病院 エイズ医療対策室長 藤井輝久） スタッフ紹介/参加者紹介/オリエンテーション
レクチャー「HIV/AIDSの基礎知識」
昼休憩
レクチャー「抗HIV薬の特徴と薬剤師の役割」 抗HIV薬について、服薬支援、薬剤師の役割
レクチャー「HIV陽性者の看護 総論」 HIV陽性者の看護とは、患者教育、服薬支援、心理的支援など
休憩
「薬害エイズの歴史・血友病と共に生きる」 薬害エイズとは・歴史・体験・看護師（医療者）に望むこと
休憩
座談会「HIV陽性者さんとの交流」

内容
開場
レクチャー「HIV疾患と歯科」 口腔ケアの意義・歯科ネットワーク・歯科衛生士の役割
レクチャー「HIV陽性者の心理的支援」 HIV陽性者の心理的支援・心理師の役割・HIV陽性者との関わり方
レクチャー「社会資源の活用について」 ソーシャルワーカーの役割、医療費助成制度について
休憩
レクチャー「性の多様性」 セクシュアリティ・当事者の抱える問題・看護師に望むこと
昼食休憩
レクチャー 「HIV陽性者の看護 各論」 HIV陽性者の看護の実際、多職種連携、HIV-CNの役割、活動など
休憩
演習「ロールプレイ」





各講義のアンケートから、講義内容は理解でき満足度の高い内容であったことが伺えました。また、講義で、HIV陽性患者からの体験を聞き、参加者からの質問や感想等を自由に話す「座談会」を設けました。アンケートから本研修のプログラムの中で満足度が一番高い結果でした。感想の中に「患者さんの実体験を直接聞くことで、どこか遠い存在だった患者さんを身近な存在に感じる事ができた」「実際の声がきけて勉強になった。今後看護師としてHIV陽性者の方にどのような対応が必要なのか考える機会になった」とあり、座談会を通し患者の体験等を聞くことは、患者理解に役立ち、今後の患者支援について具体的なイメージにつながりやすかったです。

演習「ロールプレイ」における参加者の感想の中には、「実際に演じてみることで患者の気持ちが少しわかったような気がした」「実際にしてみないと具体的な関わり方がわからなかった」とあり、ロールプレイは患者理解につながり、実際の関わりイメージができる内容であり満足度が高いことが伺えました。

来年度も有意義な研修会となるように努めていきたいと思っております。

ご参加くださった皆様、ご講義を引き受けてくださった講師の先生方に深く感謝申し上げます。



## ～第42回 薬剤師のための抗HIV薬服薬指導研修会～

薬剤部 天野莉沙

第42回薬剤師のための抗HIV服薬指導研修会に初めて参加しました。今年度より加入したため他施設の薬剤師、スタッフとの交流も初めてで、HIV感染症診療に携わるスタッフは全国にもっとたくさんいるのだと実感し、何もかもが新鮮な気持ちでした。

国立国際医療研究センターの安藤医師からは抗HIV薬の病態や最近主流となっている治療薬についてお話を聞き、治療に携わるために必要な知識を改めて学ぶことができました。

ロールプレイでは薬剤師、心理士、MSWの面談場面を録画し、再度全員で確認することで内容の検討や良い点、改善点をグループで話し合い、意見を共有しました。普段他のスタッフが面談する場面をみる事がほとんどないため、面談時の姿勢や会話の速度等、自身の服薬指導でこれから伸ばしていけそうなことが多々見つかりました。薬学なことばかり患者さんに話し面談終了としがちですが、少し雑談を交えることや患者さんの気持ちを改めて伺ってみることも自身のことを話してもらいやすい雰囲気、こちらのお話を聞いてもらえることにつながることがわかりました。

症例検討では、患者面談から得られた情報から薬剤選択や内服時間の相談等、今後の患者面談に向けてかなり実践的な内容で、多角的な視点の意見がたくさん飛び交いました。グループディスカッションで答えを導き出す際には、知識豊富なファシリテーターの方に助けてもらいながら意見がまとまっていくのを実感できました。ひとりでたくさんの選択肢を挙げられる豊富な知識と発言力をもった方が多く、はやく皆さんに追いつけるようにしたいです。また他職種の方と話していて、自身が当たり前と思っている薬学的知識や概念は、他職種や患者さんにはわからないことがほとんどであることが判明し、わかりやすい説明、相手の立場になって物事を考える大切さを改めて感じました。

今回の研修会の内容は知識やコミュニケーション等どの項目をとっても明日からの業務に役に立つことばかりでした。これからの患者面談には今回の研修会のことを再度思い出し、新しい情報にアンテナをはりつつ自己研鑽を続けていきたいと思っております。

# ～令和5年度HIV/AIDSソーシャルワーカー・ネットワーク会議、研修会のご報告～



エイズ医療対策室 ソーシャルワーカー  
重信英子

長く続いたコロナ禍での今会議・研修会は、3回のオンライン開催を経て、ようやくいつもの集合スタイルでの開催を実施することができました。今年度は、岡山市にある岡山コンベンションセンターで2日間に渡り、中四国9県より21のエイズ拠点病院、26名のソーシャルワーカー（以下、SW）にお集まりいただくことが出来ました。当会の構成は、まずは中四国で課題となっている事象について各地の状況を報告し、自施設でも対応できるように情報を共有するネットワーク会議と、最新のHIV診療および支援について専門家からの講義を広く聞く研修会の2本立てです。

今年は全体のテーマとして、診療過程における患者心理支援を設けたので、国立国際医療研究センター病院エイズ治療・研究開発センターの木村聡太心理療法士を講師としてお招きしました。

講義では、患者がHIV抗体検査を受ける場面から長期療養場面までの心理状態を教えて頂き、SWとしてどう支援していくべきなのかを学びました。

施設によっては身近に心理士が不在な時もあるので、患者の揺れ動く気持ちに対してSWが寄り添い、適切な支援に導くことが求められます。また、HIV治療が長期に渡ると、各種制度利用において支援の必要が無くなる患者に対して、SWとしてどんな支援を行っていくべきなのかを悩むこともあります。木村先生から、どの治療過程であっても、患者のライフスタイルが加齢と共に変化し、その時々悩みや問題点は発生しているということを教えて頂き、患者からは表出されない部

分にも注視する必要があると感じました。

木村先生からのご講義後の会議では、精神科や心療内科への受診を検討した方が良いと思った症例の有無について参加者に尋ねると、21施設中10施設で「有る」と回答がありました。「有る」と回答された施設のその後の対応としては、「HIV診療主治医や心理士に相談し、カンファレンスを開催した」、「院内の精神科へコンサルすべきか主治医と検討した」、「単科の精神科病院にHIV出前研修を実施し、受け入れ準備を支援した」、「薬物依存症の専門機関に繋いだ」等、まずはHIV診療チーム内で共有し、場合によっては院外施設に繋ぐという支援をSWは経験していました。

支援経験者からの情報は何よりも代え難いアドバイスとなり、参加者の今後の支援に必ずや結びつくと思っております。今後もSWとして何ができるのかを常に念頭に置きながら、院内外に働きかけていくことができる仲間と共に、中四国を盛り上げていきたいです。やっぱり面と向かって会う研修会はいいですね！！



シュンレンカ®の販売承認決定！

HIV/AIDSの治療薬は、飲み薬に加えて注射剤が開発され、より生活スタイルに合わせた治療を行うことができるようになりました。

今回、販売が開始となる新薬は、飲み薬と注射剤がセットになった治療です。この治療薬は、薬剤耐性のある患者さんに強力な効果を発揮し、半年に1回の注射剤投与でウイルスコントロールできると言われています。

今やHIVの治療は、生命予後の改善だけでなく他者への感染ゼロの時代となっています。

